平成 14・15 年度福岡市教育委員会研究指定

研究発表会紀要

研究主題

道徳性の芽生えを培う保育の在り方

ー 人とのかかわりに視点をあてて ー

平成１５年１１月５日（水）

福岡市立和白幼稚園

Ⅰ　研究の基本的な考え方

1　研究主題

道徳性の芽生えを培う保育の在り方

―人とかかわる活動に視点をあてて―

2　主題設定の理由

○　本園幼児の実態から
- 　主体的に活動する楽しい遊びの中で，自分の思いを出す。
- 　他者と多様なやりとりをする。

○　保護者の願いから
- 　人とのかかわりの中で優しさ，思いやりを身に付ける。

○　本園教育目標から
- 　明るく，元気に遊ぶたくましい子ども
- 　自ら人とかかわることのできる積極的な子ども
- 　思いやりのある感性豊かな子ども
- 　自分のことは自分でできる自主的な子ども

○　幼稚園教育要領の趣旨から
- 　人への愛情や信頼感を育て，自立と協同の態度及び道徳性の芽生えを培うようにする。

○　社会情勢の変化による今日的課題から
- 　群れ遊び，異年齢交流の重視
- 　体力，意欲，耐性の向上

3　研究主題の意味

○　「道徳性の芽生え」とは
　幼児が，友達と遊びたいという気持ちをふくらませ，友達とよい関係を築き，保ちたいという気持ちをもつこと

○　「保育の在り方」とは
　環境構成及び教師の援助の究明

○　「人」とは
　幼稚園内における，同年齢，異年齢の幼児

○　「人とかかわる活動」とは
- 　対等な関係の中で，他者を意識し，自他の気持ちや欲求が異なること，似ていることに気付くような活動
- 　目標やモデルとしての姿を学ぶ活動や信頼感・安心感等をもつことができるような活動
- 　友達といるここちよさやあたたかさ，いたわりを感じることができるような活動

4　研究の目標

人とかかわる活動を通して，幼児に道徳性の芽生えを培う環境構成及び援助の在り方を明らかにする。

5　研究仮説

園生活における人とかかわる活動を通して，次のような手だてをとれば，幼児に道徳性の芽生えが培えるであろう。

○　友達とのかかわりを広げ，深めていける遊び場の設定を計画的・系統的に工夫する。

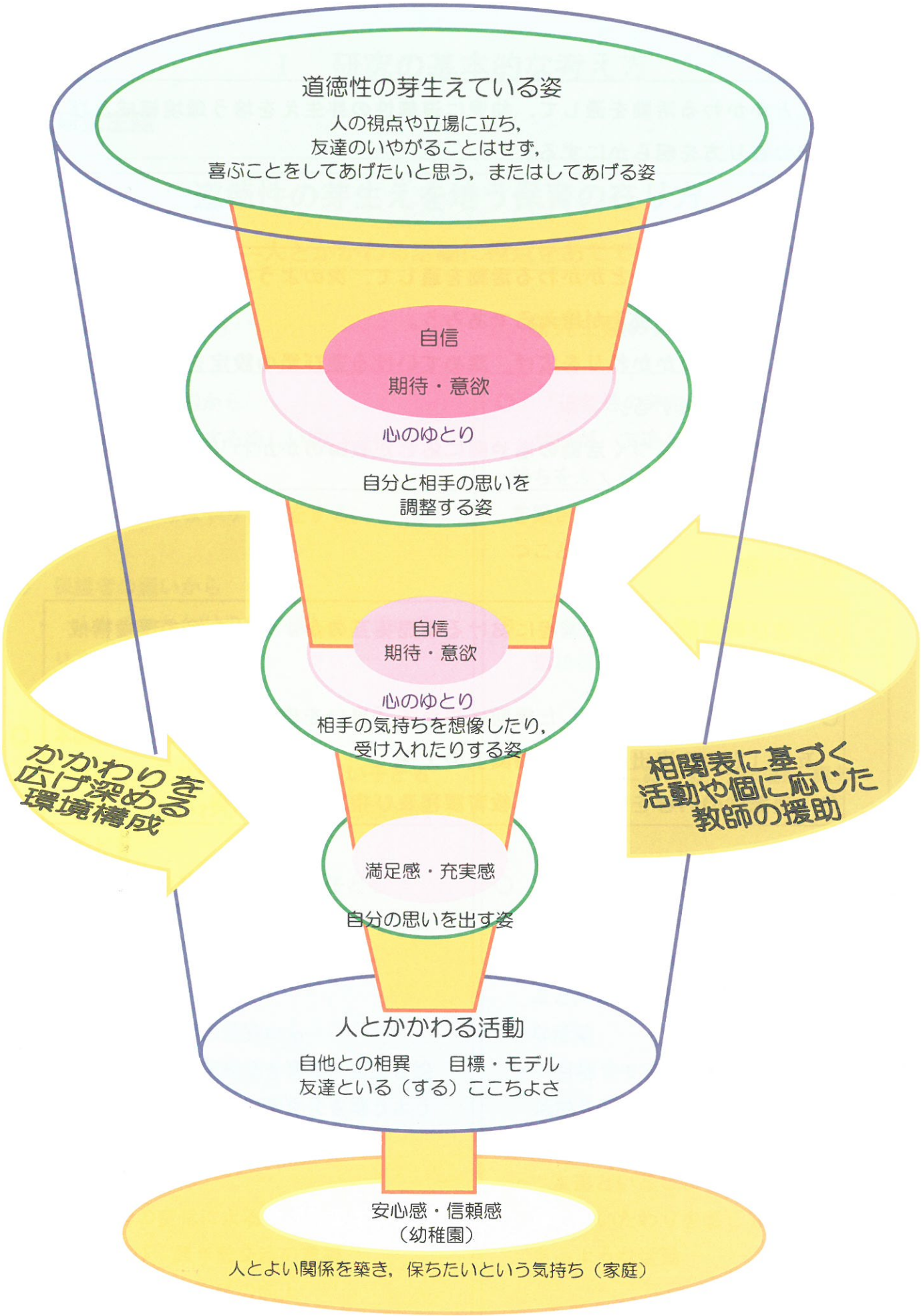
○　相関表に基づく活動の場や個に応じた教師のかかわり方を工夫する。

6　研究内容

○　遊びの連続・発展の過程における幼児相互のかかわりを促す環境構成の工夫

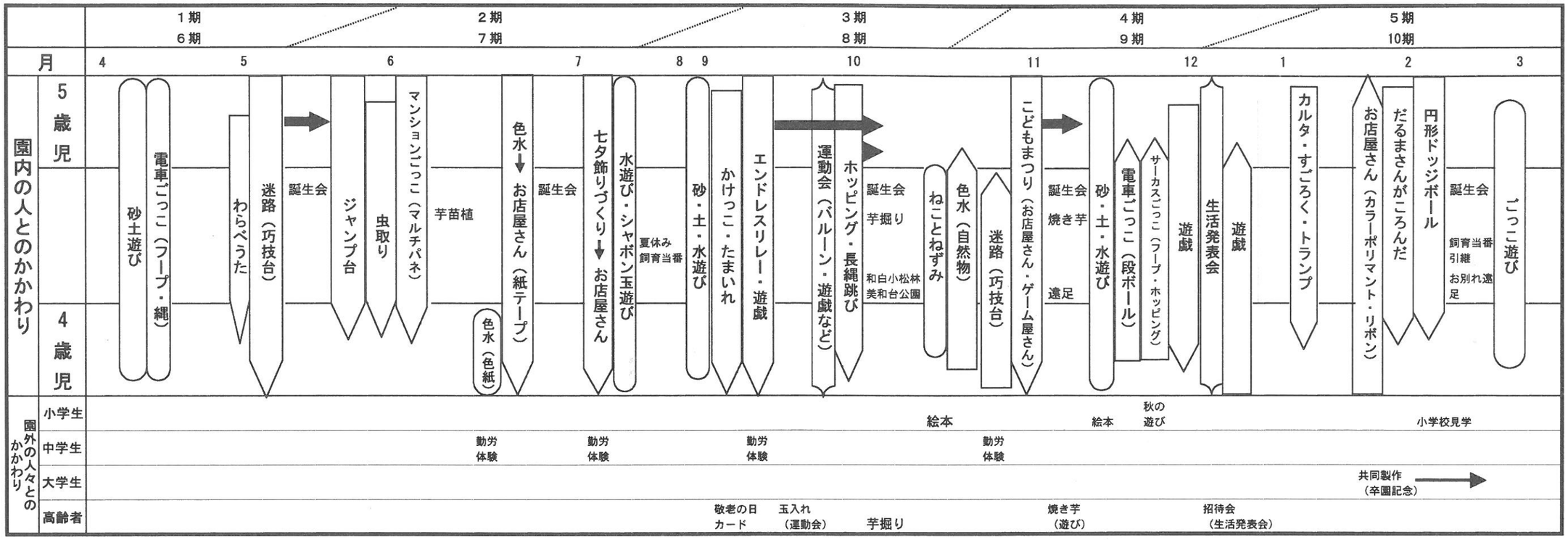
○　一人一人の発達に即した援助に生かす「思いを表出できる対象と人数」及び「思いの表出の姿」の相関表の工夫

○　道徳性の内容を位置づけた教育課程及び指導計画の改善


道徳性の芽生えている姿
人の視点や立場に立ち，
友達のいやがることはせず，
喜ぶことをしてあげたいと思う，またはしてあげる姿
自信
期待・意欲
心のゆとり
自分と相手の思いを
調整する姿
自信
期待・意欲
心のゆとり
相手の気持ちを想像したり，
受け入れたりする姿
満足感・充実感
自分の思いを出す姿
人とかかわる活動
自他との相異　目標・モデル
友達といる（する）ここちよさ
安心感・信頼感
（幼稚園）
人とよい関係を築き，保ちたいという気持ち（家庭）
かかわりを
広げ深める
環境構成
相関表に基づく
活動や個に応じた
教師の援助

Ⅱ　研究の実際

1　幼児同士のかかわりが多く見られた遊び



《表の見方》

- 5歳児が始めた遊びが4歳児へ伝わり，かかわりが広がったもの
- 4歳児が始めた遊びが5歳児へ伝わり，かかわりが広がったもの
- 日常の園児の遊びに直接影響のある園行事
- それぞれが気の合う友達と遊ぶうち，同じ場や遊具を使う中でかかわりが広がったもの
- 枠の幅とそれからのびる矢印は，遊びが続いた期間を表す
- 枠の長さは遊びにかかわった人数を表す

（平成１０年度から平成１４年度までの「週の計画と記録」及び平成１５年度教育課程・指導計画より）

《環境構成をする上での留意点》

○　園児が興味を持ち，やってみたいと思う内容であるか。
　・　素材に魅力があるか。
　・　挑戦意欲をかき立てたり，興味・関心・好奇心を高めたりするものであるか。
○　自己選択が繰り返し行えるか。
○　人にかかわらざるを得ない状況が出てくるか。
○　すでにしたことのある遊びに取り入れたり，新たな遊びに発展（作り替え）させたりすることができるか。
○　ある程度の期間が保障されるか。

《お店屋さんごっこの特性》

○　お店の人は，あこがれやモデルとしての存在である。
○　日常生活と結びついているため，仕事の内容や働く人の様子を知っている。
　・　イメージを共有できる。
○　自分のイメージで自分なりのお店が開ける自由性がある。
○　やりとりのパターンがあるので活動に取りかかりやすく，その後の会話は，状況や思いに応じて自由に変えられる。
○　総合的な遊びである。
　・　技術的な特技を生かせる（環境，表現など）。
　・　人とかかわることができる（健康，人間関係，言葉など）。

《エンドレスリレーの特性》

○　はちまきさえ付けていれば，参加できる。
○　いつでも参加でき，いつでもやめることができる。
○　勝ち負けがはっきりしない。
○　個人的には競争できる。
○　人数や走る回数に縛られない。
○　自由にチームを変えられる。
○　難しい言葉のやりとりがいらない。
○　ルールが簡単である。

《迷路の特性》

○　いつでも参加でき，いつでもやめられる。
○　挑戦意欲をかき立てられ，できたという達成感が得やすい。
○　ドキドキ，はらはらの気持ちになれる。
○　自分達で自由に構成し，作りあげることができる。

2　相関表

（1）　人とのかかわりの視点から幼児の実態を捉える手段として，下に示す表を作成し，伸ばしたい方向を検討していく。

表１　好きな遊びにおける相関表（４歳児　10月下旬）

安定	共感や思いやりをもつ Ⅷ							
安定	他者の思い：と調整を図る ・妥協案を出す ・順番を守る Ⅶ							
安定	他者の思い：を受け入れる ・「それ，いいね。やってみよう」 ・「いやがっているからやめよう」 Ⅵ						a　g	
安定	他者の思い：に気付く ・「これほしいの？」 ・「いやがっているみたいだな」 Ⅴ					G　M	C　D　K　O h　p	
安定	自分の思い：を言葉に出す ・要求を出す。 Ⅳ				B　I　Q	H c　e　f　l	A　F　L　N　R d　k　i　j　o　n	
安定	自分の思い：を態度に出す ・自分のしたい遊びを見つける Ⅲ					P	J b　q　m	
安定	自分の思い：をもつ Ⅱ						E	
不安定 Ⅰ								
思いの表出の姿 ／ 思いを表出できる対象と人数	本人のみ ①	＋教師 ②	＋教師 ＋友達１人 ③	＋友達１人 ④	＋教師 ＋友達２～５人 ⑤	＋友達２～５人 ⑥	＋友達６人以上 ⑦	

男児１８名（A～R）
女児１７名（a～q）

活動を通して

（2）　表に表れた個人の“伸び→”を「思いの表現・気づき」という観点から整理し，　個に応じた適切な援助の手だてを再考していく。

表２　好きな遊びにおける相関表（４歳児２学期末）

安定	共感や思いやりをもつ Ⅷ							
安定	他者の思い：と調整を図る ・妥協案を出す ・順番を守る Ⅶ							
安定	他者の思い：を受け入れる ・「それ，いいね。やってみよう」 ・「いやがっているからやめよう」 Ⅵ						a　g	
安定	他者の思い：に気付く ・「これほしいの？」 ・「いやがっているみたいだな」 Ⅴ					G　M	C　D　K　O h　p	
定	自分の思い：を言葉に出す ・要求を出す。 Ⅳ				B　I　Q	H c　e　f　l	A　F　L　N　R d　k　i　j　o　n	
定	自分の思い：を態度に出す ・自分のしたい遊びを見つける Ⅲ					P	J b　q　m	
定	自分の思い：をもつ Ⅱ						E	
不安定 Ⅰ								
思いの表出の姿 ／ 思いを表出できる対象と人数	本人のみ ①	＋教師 ②	＋教師 ＋友達１人 ③	＋友達１人 ④	＋教師 ＋友達２～５人 ⑤	＋友達２～５人 ⑥	＋友達６人以上 ⑦	

＜“伸び→”の見方＞

→…かかわる対象と人数の広がりが見られる。
↑…かかわりの深まりが見られる。
↗…かかわる対象と人数の広がり，深まりの双方が見られる。
↘…かかわる対象と人数の広がりが見られる一方，かかわりの深まりは１つ前の段階に戻る。
↖…かかわりの深まりが見られる一方，かかわる対象と人数のひろがりは，１つ前に戻る。

3　実践記録

２年保育　年長５歳児　月・星組

＜人とのかかわりの側面から＞

○ 進級時の新しいクラス編成により，環境や友達に慣れるのに精一杯という姿が多く見られた。５月上旬までは，年中組の時からの仲の良い友達と楽しむことが中心だったが，グループでの活動や共通の遊びを通して，新しい友達とのつながりができてきている。

○ 友達の好きな遊びや得意なことに気づいている幼児が多く，自分から仲間に入り教えてもらったり，友達の頑張りを認めたりする姿が見られる。また，自信がもてるものがある幼児は，積極的に人にかかわろうとしている。

○ 年中組の時の友達がいるという安心感から，保育室を往き来したり遊びに仲間入りしたりと，同学年同士で自然な交流ができている。特に，共通の遊びをする時は，お互い仲間に誘い合い，場づくりも一緒に考えを出し合うなど，より多くの友達の中で遊びを楽しんでいる。

○ 年中組の保育室が隣りにあることもあって，年中児の行動が見えやすい状況にある。年中児の手伝いをしたり，自分達の遊びに受け入れたりすることで，年長児という実感を味わっている。

表３　好きな遊びにおける相関表（５歳児　６月下旬）

安定	共感や思いやりをもつ Ⅷ					j　l　o		
安定	他者の思い：と調整を図る ・妥協案を出す ・順番を守る Ⅶ					G　a　n	E　O　i	
安定	他者の思い：を受け入れる ・「それ，いいね。やってみよう」 ・「いやがっているからやめよう」 Ⅵ					P	I　J	
安定	他者の思い：に気付く ・「これほしいの？」 ・「いやがっているみたいだな」 Ⅴ					D F L M N Q g m p	C R S c d e f h	
安定	自分の思い：を言葉に出す ・要求を出す Ⅳ				T		A B H k	
安定	自分の思い：を態度に出す ・自分のしたい遊びを見つける Ⅲ						K b	
安定	自分の思い：をもつ Ⅱ							
不安定 Ⅰ								
思いの表出の姿 ＼ 思いを表出できる対象と人数		本人のみ ①	＋教師 ②	＋教師 ＋友達1人 ③	＋友達1人 ④	＋教師 ＋友達2〜5人 ⑤	＋友達2〜5人 ⑥	＋友達6人以上 ⑦

P児：６／２０転園　T児：６／２３途中入園　m児：６／３〜長期欠席

男児１９名（A〜T）
女児１６名（a〜p）

＜中心的な活動の側面から＞

○ ６月中旬，紙テープを使った「色水屋さん」を通して，年中組の友達との売り買いのやりとりを楽しんだり，相手が困っているのに気づいてやさしくかかわったりする姿が見られた（写真１）。「いっぱい売れたよ」「やっぱり花組と一緒は楽しいね」など充実感を味わったことから，自分達の知っている楽しいことは，年中組に教えたいと思っている。折り紙遊びでは，自分で折ることができるようになったものを，教師や友達にプレゼントしたり，壁面に飾ったりして楽しんでいる。

教師が種類別にかごに入れると「お店やさんみたい」「これ買ってもいい？」と品物を作るお店屋さんとお客さんの役に分かれて，楽しむ姿も見られた。

○ 年中組より先に，昨年の経験を思い出しながら「どんな材料でどんな飾りを作るのか」と友達と考えを出し合い，自分の七夕飾りを作っている。また，染め紙や切り紙遊びでは，友達とできあがった模様が違うことに気づき，教え合う姿も見られる。

（写真２，３，４）

写真１　色水屋さん遊び

写真２　染め紙遊び

写真３　切り紙遊び

写真４　飾り作り
（星形，うずまき）

２年保育　年中４歳児　花組

＜人とのかかわりの側面から＞

○ 入園当初，初めての集団生活に不安を感じていた幼児も，５月に入ると自分の居場所もできて，教師から離れても不安を感じない幼児が多くなった。好きな遊びを見つけて活動する幼児が増え，数人の気の合う友達もできつつある。簡単な会話を交わしながら，一緒に遊ぶ姿が見られるようになった。

○ ４月から集まりや片付けなど年長児がかかわってくれたことにより，緊張しながらも年長児の遊びに興味を示す幼児が多く，巧技台を組んだ迷路遊びや色水屋さんごっこでは全員が場を共有していた。年長児の誘いに会話は交わせなくても，嬉しそうに参加する姿も見られるようになった。

表４　好きな遊びにおける相関表（４歳児　６月下旬）

安定	他者の思い	共感や思いやりをもつ Ⅷ							
		と調整を図る ・妥協案を出す ・順番を守る Ⅶ							
		を受け入れる ・「それ，いいね。やってみよう」 ・「いやがっているからやめよう」 Ⅵ							
		に気付く ・「これほしいの？」 ・「いやがっているみたいだな」 Ⅴ							
	自分の思い	を言葉に出す ・要求を出す Ⅳ			Ｑ　ａ	Ｐ　Ｒ ｅ　ｊ　ｏ			
		を態度に出す ・自分のしたい遊びを見つける Ⅲ			Ａ　Ｄ　Ｎ　Ｓ ｄ　ｆ　ｇ	Ｃ　Ｅ　Ｉ　Ｊ Ｋ　ｂ　ｉ			
		をもつ Ⅱ			Ｈ　Ｌ　Ｍ ｃ　ｈ　ｌ　ｍ　ｐ	Ｆ　Ｇ　Ｏ ｋ　ｎ			
不安定 Ⅰ									
思いの表出の姿 ＼ 思いを表出できる対象と人数			本人のみ ①	＋教師 ②	＋教師 ＋友達1人 ③	＋友達1人 ④	＋教師 ＋友達2－5人 ⑤	＋友達2－5人 ⑥	＋友達6人以上 ⑦

男児１９名（Ａ～Ｓ）
女児１６名（ａ～ｐ）

＜中心的な活動の側面から＞

○ 年長児の色水屋さんごっこに興味を示し，お客として参加しながらやりとりを楽しんだ。自分の好きな色水を買いたいという思いから年長児の誘導で長い列をつくって何度も並んだり，思いを満たされた幼児は年中児同士で買った物を見せ合っては喜ぶ，一緒にお店屋さんに参加するなどの姿が見られた。年長児を自分達の目標・モデルとして感じ始めている。

○ 年長児が取り組んでいる笹飾りを見て，自分達もやってみたいという思いが膨らんでいる。年長児に尋ねたり，頼んだりと自分なりに思いを態度に表す幼児も出てきている。

七夕飾り屋さんの価値

環境構成をする上での留意点	七夕飾り屋さんでは… ４歳児	５歳児
○ 自分のほしい，やってみたい内容であるか。 ○ 園児が興味を持ち，やってみたいと思う内容であるか。	○ ４歳児にはできない（したことのない）遊びやかかわり，またそれをしている５歳児に興味・関心を持ったり，憧れたりする。	○ 憧れているお店屋さんになれる。楽しいから，４歳児と一緒にしたい。４歳児が喜んでくれると，自分がうれしいからしたい。
・ 素材に魅力があるか。 ・ 挑戦意欲をかき立てたり，興味・関心・好奇心を高めたりするものであるか。	・ 季節ならではの素材（笹）を使う（きれい，いいにおい，いい音がする）。 ・ 一人一人自分のものがある。 ・ 自他の相違が一目で分かる。	
○ 自己選択が繰り返し行えるか。	○ する・しないを選べる，作る（買う）飾りを選べる，役割を選べる（５歳児）など	
○ 人にかかわらざるを得ない状況が出てくるか。	○ お店屋さんの形にする。 ○ この時期に出会わせたい（触れさせたい）内容であるが，４歳児だけでは十分でない点を５歳児と共に達成できる。	
○ すでにしたことのある遊びに（遊びを）取り入れたり，新たな遊びに発展（作り替え）させたりすることができるか。		○ 折り紙，切り紙，三つ編み，染め紙，鎖つなぎなどが使える。
	○ 笹をもってままごとや家ごっこに加わり，見せ合う。 ○ それぞれの遊びの場で，段ボールやロール芯に立てて飾る。	
○ ある程度の期間が保障されるか。	○「後で」，「明日も」できる。	

七夕飾り屋さん　保育案

援助枠内の記号（Ⅰ①など）は，相関表のグループを表しており，個人の実態とこの日，予想される遊びに応じて，一人ひとりへの援助ができるように，記している。

主に４歳児花組同士の遊び

マルチパネの家ごっこ

▲笹を持って家に座ったり，立ったり，飾ったりして楽しむ姿を受け止め，一緒に仲間入りして思いに共感する。

（Ⅱ④）

マルチパネの家づくり

▲遊びのイメージが友達と共通になるよう，一人一人の考えを確かめたり引き出したりし，それを友達に伝えていくよう促す。
▲年中児も自分達の家を求めているので，マルチパネを分けてあげたり，年中児のために作ってあげたりするよう促す。

（Ⅴ⑤⑥　Ⅵ⑥）

七夕飾りづくり　七夕飾り屋さん

▲いろいろな飾りを自分達で作れるようになったことを，教師だけでなく友達とも認め合うことで，自信を持って年中児にかかわれるようにする。
▲七夕飾りを作って売ったり，買って飾ったりするなど，多くの友達と一緒に楽しんだという気持ちに共感する。

▲場や道具の取り合い，売れ具合の心配など幼児同士で考えたり，相談したりして解決できるよう相談に乗ったり，仲介役となったりする。
▲年中児とのかかわりの中で，遊びのルールを伝える必要性を感じさせ，どう伝えたらいいか一緒に考える。

（Ⅴ⑤⑥　Ⅵ⑤⑥　Ⅶ⑤⑥　Ⅷ⑤）

遊びがつながり，幼児同士のかかわりが見られると予想されるもの

直接のかかわりは見られないものの，相手を意識したり，思いを寄せたりする姿が見られると予想されるもの

砂・土・水遊び

▲気の合う友達とかかわりながら，「長くしたい」「深く掘りたい」など思いを持って活動している姿を受け止め見守る。
▲道具の取り合いなどから貸し借りの必要性に気付いていけるよう幼児同士の気持ちをつなぐ。

（Ⅱ③　Ⅲ④）

七夕飾り屋さん

▲自分から好きな飾りを買いに行ったり，作り方を教えてもらったりしながらかかわりを楽しんでいる幼児を見守る。

（Ⅲ④　Ⅳ④）

▲興味は示しているが「これがほしい」と自分から言えない幼児の思いを年長児に伝える。

（Ⅱ③　Ⅲ③）

▲緊張している幼児に寄り添い，一緒に買って楽しさを共感する。

（Ⅱ③　Ⅲ③④）

▲作ったものを遊びに使っている姿を認め喜びを共感する。

（Ⅳ③④）

▲飾った笹を見合える場を作り，倒れないように配慮する。

環境構成

家を七夕飾り屋の側に移動

マルチパネ，屋根部品，きのこいす，シート，ロール芯など

笹，シール，折り紙，染め紙，画用紙，セロテープ，平テープ，水性マーカー，かご，テーブル，巧技台，簡易テントなど

スコップ，バケツなど

テーブル，シート，ロール芯付き段ボール箱など

ままごと道具，ござ，エプロン，ままごとサークルなど

色紙，包装紙，輪ゴムなど

大中小の段ボール箱など

平テープ，セロテープなど

新聞紙，広告紙，廃材，セロテープ，ビニルテープなど

ねらい

年中４歳児

- ○　教師や友達同じ場所で遊んだり，
- ○　年長児の遊びに興味を持ち，やっ
- ○　順番の心地よさを感じる。

年長５歳児

- ○　いろいろな遊びの中で，自分なりりして遊ぶ。
- ○　自分の思いや考えを伝えたり，相一緒に遊びを進める。

同じものを持って遊ぶことを楽しむ。てみようとする。

のめあてを持ち，試したり，工夫した

手の気持ちを受け止めたりしながら，

援助

ままごと

▲ままごとの場にも笹を用意し，一緒に飾りを買いに行ったり，作ったりして，他の遊びともつないでいく。

（Ⅲ⑥　Ⅳ⑥）

ヒーローごっこ

▲気の合う友達と，ヒーローごっこに使う共通のものを作り，身に付けたり使ったりして遊んでいる姿を認める。

▲いざこざが起こったらそれぞれの思いを出させ，仲介しながら思いの違いに気づかせる。

（Ⅱ③　Ⅲ③）

段ボール遊び

▲風呂，乗物，家などに見立て，友達とかかわりながら楽しんでいる姿を見守る。

三つ編み

▲いろいろな色を組み合わせたり，できた鎖をバックにつけたり，七夕飾りに使ったりするなどの工夫している姿を認める。

（Ⅵ⑥）

剣づくり・廃材工作

▲細く固い剣が作れるようになったことを一緒に喜び，やり方を教えたり，友達を手伝ったりすることに気付くよう促す。
▲製作したものを使って遊んだり，七夕飾りに使ったりして他の遊びともつないでいく。

（Ⅳ⑤　Ⅴ⑤）

七夕飾り屋さん　実践記録

マルチパネの家ごっこ

道徳性の芽生えの姿が表れていると考えられる言動

マルチパネの家づくり

年中児が笹飾りを持って，マルチパネの家の側に寄ってくる。
「入っていいよ。」
「笹，ここに入れて。」
「わあー，花組さんよかったね。お兄ちゃん達やさしいね。」

昨日までに作った折り紙を持ってきて，
「先生，これも売っていい？」
「うん，いいよ。きっと花組さんも喜ぶよ。どこで売る？」
「ここで売る。ねえ，まあくん一緒にしない？」

「今日は，私，この飾り売る！」
昨日までに作っておいたものを思い思いの場所に運ぶ。

「笹屋さんでーす。」
「先に笹を買ってね。」
「笹，もらってない人，来てください。」
「名前は何だったっけ？」
名札を見たり，名前を聞いたりする。

▲年長児が年中児の気持ちに気付き，やさしく言葉をかけていることを認め，価値づける。

▲その子の考えや選択を受け入れ，実現できるよう，見守ったり，一緒に考えたりする。

▲「一人一本は必ず得ることができるように，なくさないように」という年長児の思いを受け，笹と個人シール付きの名簿を一緒に準備しておく。

砂・土・水遊び

笹飾りを持って砂場ジャングルジム付近に行くが，砂遊びはしない。マルチパネの家に入ったり，見せ合ったりしながら言葉を交わす。

▲友達と一緒に笹飾りを持つことを楽しみ，揺らしたり，風になびかせて，うれしそうにしている姿を見守る。

ロール芯，布テープなど

テーブル，巧技台など

幼児の言動と教師のかかわり

「5歳児」
『4歳児』

援助

環境の再構成

ねらい

ロール芯，布テープなど

ロール芯を布テープで張って，笹飾り立てを作

▲一緒に飾りを作ったり，買いに行ったりして七夕飾り屋さんとつなぐ。

▲段ボール箱とロール芯を使って，自分の笹飾りを見せ合える場を作る。

ままごと

自分の笹をままごとコーナーに飾る。
「今日は，七夕祭りでーす。」
「ごちそういるね。」
「じゃあ，お母さん作ってね。私，買い物に行ってきまーす。」

「今日は，なに買おうかな。」
「私も一回，買ってくるね。」
「うん，また帰ってきてね。」
「先生，こんなのも買ったよ。」

ヒーローごっこ

『私の（笹），○○ちゃんの横に置こう。』
『私，これ買ったよ。』
『これ，同じやね。』
『これ，いいね。どこで買ったと？』
『おしえちゃるけん,いこう。』

七夕飾りづくり　七夕飾り屋さん

「先生，誰もこない。」
「どうして？
「お客さん，どっちにいっぱいいるかなあ。お客さんに飾りが見えた方がいいんじゃない？」
「そっかー!」

年中児が並びやすいように小フープを一列に並べて置く。
「いいこと考えたね，花組さんわかりやすいね。」

年中児が，笹と飾りを持ってどうしていいか分からずに立っている。
「この飾り，自分で笹につけられるかな？」
『ううん』
「自分でつけられないんだって。大きい組さんどうしようか。」
「これどこにつける？」と尋ね，セロテープで貼り付ける。
『…ありがとう…。』
「付けるのも，してやらんと。」
「ほんとだね。いいこと気が付いたね。花組さん，喜んでたね。ありがとう。」

それぞれのお店の前にうれしそうに集まっている。
「いっぺんに来たらわからんけん，並んでー。」
『この後ろよー。並んで。』
『ここに，ならびーよ。』

「いらっしゃいませー。」
「どれがいる？」
「好きなのとっていいよ。」
『…これ…。』
「はいどうぞ。」
『ありがとう。』
「ありがとうございました。」

▲呼び込みをしたり，お客さんになったりしながら，周りの子ども達にお店の存在を伝えていく。

▲年中児の戸惑いに気付いた思いやりとそれを解決するためのアイデア，行動を認め，価値づける。

▲年中児の思いを代弁し，年長児が相手を思いやって行動できるよう一緒に考える。解決できたアイデアと行動を認め，価値づける。

▲担任は，前もって年中児の意思を確認しているが，「自分で言えると，大きい組さんよくわかるよ」と幼児同士の直接のかかわりを促す。

テーブルと飾りを入れたかごの向きを変える。

小さいフープ

セロテープを増やす。

▲一人一人にかかわっていることを認め，価値づけるとともに，明日に期待する気持ちに共感する。

▲楽しみにしている気持ちに共感し，子供と共に待つ。

▲その子の思いを確認し，友達につないだり，一緒に行動したりする。

テーブル，かご，箱，画用紙など

▲笹飾りを立てた段ボール箱を動かせるように途中でひもを出しておく。

▲作ったものは，種類ごとに分けて，売ることができるようかごを運んでおく。

▲その子の楽しんでいるもの，その子の持っている力で，七夕飾り屋さんにかかわれるような提案をする。

七夕飾り屋さん

「誰が来てない？」
「花組の○○君と△△君が買いに来てないよ。聞いてこよう。」
「ねえ，○○君と△△君，七夕，どうする？」
『…』
「大きい組さんに自分で言えるといいねー。」
『…明日する…』
「分かった，明日まっとうけん。」
「△△君は？どうする？行ってみる？」
『うん。』
年長児が手を引いて笹屋さんに連れて行く。
「来てくれてよかったね。」
「うん，○○君は明日って。明日も楽しみー。」
「ほんとねー。」

年中児が，お店の準備を見て，待ち遠しそうにしている。
『先生，まだかなー。』
「わあー，楽しみだねー。」

一緒にしたいと思っているが，初めてすることや，大きな集団にはいることに緊張を感じ，戸惑っている。

段ボール遊び

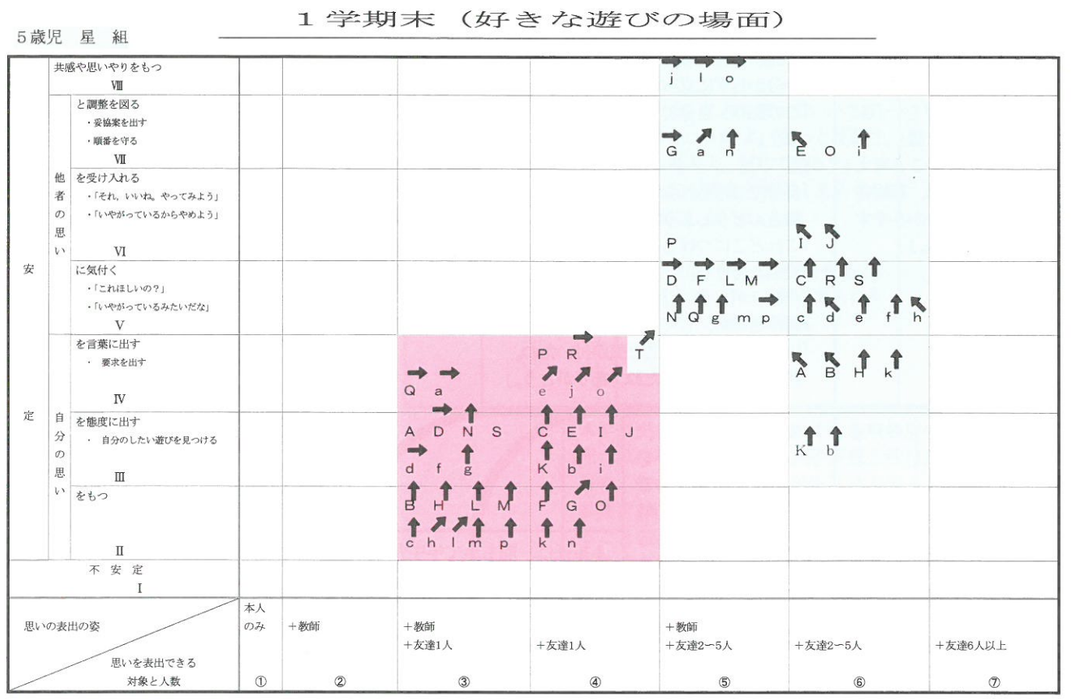
『ねえ，僕にもさせて。』
『次は僕よ。』
『落ちたやん，かわいそうやん。』
『そんな力いっぱい引ぱらんどきーよ。』
『うん。』

三つ編み → 飾りづくり ← 剣づくり・廃材工作

「なくなったよ。どうする？」
「よし，作りに行こう。」
「○色がなくなったから作って！」
「よし，これもできた。お店に持っていこう。」

広告紙に印刷されているヒーローの写真を切りとってカードにし，自分の笹に飾っている。
「わっ，かっこいい。これもお店屋さんで売ったら，花組さん喜ぶんじゃない？」
「いいね！このカード売ろう。」
「じゃあ，ぼく，いっぱい切るね！」

七夕飾り屋さんでの反省及び考察



4歳児 花 組　　P児：6／20転園　T児：6／23途中入園　m児：6／3～長期欠席

＜年中4歳児＞

○ 環境の留意点にそって場を構成したことによって

- 一人一本ずつの笹，興味をそそる様々な飾りを売る5歳児の店は，4歳児にとっては自分の物を作りたいという思いを膨らませるのに効果的であった。そこでは，友達と誘い合ったり，自分から笹屋さんや飾り屋さんに行く姿が多く見られ，自分の力で店に買いにいけた，自分の笹飾りができた，5歳児ともかかわれたといった自信・満足感を味わい，自分なりに自己を高めるきっかけとなった。**（写真5）**
- 5歳児からの問いかけや誘いかけに対して，自分なりに声に出したり態度に表したりして答える姿が多く見られ，ほとんどの幼児が自分から「ありがとう」と言えていた。優しくしてくれた5歳児の気持ちにふれ，嬉しい思いに満たされた満足感が身近な友達に優しくできるゆとりに繋がると考える。
- 「ここよ」「私の後ろよ」と言いながら，どの店でも長く列をなしてわくわくして並んでいた姿は，後ろでも絶対貰えるとの安心感，友達と一緒にいたいといった気持ちに裏打ちされた順番（ルール）を守る心地よさ・必要性を実感したものと考える。**（写真7）**

○ 相関表を生かした個に応じた援助

- それぞれにあった援助をすることができた。特に（Ⅱ③群）には，5歳児へ思いを伝える援助をしたのが一人だったことから，この遊びが幼児の心を動かすのに十分価値あるものであったと言える。
- 5歳児の活動に参加することに緊張した様子を見せるA児（Ⅲ③群）に対して，自分の思いを自分で伝えることができるように勇気づけたり，聞き手の5歳児（Ⅶ⑥群）に前もって様子を知らせかかわりやすい状況をつくっていったことで，A児は自分の思いが伝わった喜びを実感することとなった。翌日，七夕飾りやさんに主体的にかかわるA児の姿が見られた。

＜年長5歳児＞

○ 環境の留意点にそって場を構成したことによって

- 各クラスで大きな笹飾りを1本作る活動では，幼児同士のつながりは生まれにくいと考え，今年度は一人ずつ自分の笹飾りを作れるように準備したことで，『自分のもの』という思いから笹飾りづくりにより主体的にかかわり，笹飾りを大切に扱った。「花組さんも，この笹飾りが欲しいだろうな」と多くの幼児が4歳児の思いを想像することができ，笹飾り屋さんの主体的な行動へとつながっていった。
- 本活動で4歳児と直接かかわりは見られないものの，相手を意識している七夕飾りづくりのグループの姿からも，「これも作ったら喜ぶかな」「何色が好きかな」と4歳児の喜ぶ姿を想像できる心のゆとりが見られた。
- 5歳児が主体的にお店やさんの前に小フープを並べ「ここに並んでね」とかかわった姿は，4歳児に対して「みんなにしてあげたい」「順番を守ったらうまくいく」という自分の視点からだけでなく相手の視点からも考え，調整する力がでてきている。
- 4歳児と一緒に七夕飾りやさんをすることは，同年齢でのかかわりで心の動きが少ない幼児（Ⅳ⑥，Ⅴ⑤群を中心）にとって，自信をもってかかわりやすく，できるようになった今の自分（自分の成長）を実感できる場となった。また，色水屋さんに引き続き，4歳児と一緒に楽しんだという共有体験の積み重ねが，「たくさんで遊ぶと楽しい。今度は何を（一緒に）しようかな」という意欲や次への期待をもたせることにつながっている。

○ 相関表を生かした個に応じた援助

- 前日までに，七夕飾りやさんでの見通しをそれぞれの幼児（群ごと）にもたせることで，自信をもってかかわる姿が見られ，その幼児なりの達成感を味わうこととなった。
- 「一緒に楽しみたい」という思いから表出された幼児の言動や表情，態度などに対し，教師が個に応じて道徳的な価値づけを繰り返し行うことにより，人とかかわる意欲が高まっていくことが明らかとなった。**（写真6，8）**

写真5　「きれいね」「わたしのもみて」と笹飾りを見せ合う4歳児

写真6　「つけてあげようか？」とやさしく声をかける5歳児

写真7　「もうすぐだね」と並んで待つ4歳児

写真8　「こっちのお店はなにかな？」と4歳児の手を引く5歳児

Ⅲ　成果と課題

1　成果

○　遊びの設定に際しては，すぐに取りかかれる幼児，しばらく様子を見て取りかかる幼児，教師と一緒なら加われる幼児がいることを踏まえて，一定期間継続させ，幼児の活動を見通し，新しい要素を加味した環境の再構成を行うことにより，安心感や自信，意欲や期待をもって主体的に活動し，その楽しさや喜びを表現する幼児が増えた。

・　４歳児は「今までできなかったけれど，頑張れた。」「したかったことができた。」などの満足感を味わい，「今度は一人で行ってみよう」「次はどんなことするのかな」など次の活動への意欲や期待感をもつことができた。

・　５歳児は「４歳児や友達と一緒にした。」「○○してあげられた。」「喜んでもらえた。」などの相手に喜んでもらえたという満足感や「また，来てくれるかな」「今度は，○○しよう」など次の活動への意欲や期待感をもつことができた（がふくらんできた）。

○　過去のデータから，幼児が意欲的に取り組む活動を予測し，常に人とかかわる必然性の出てくる内容の工夫や環境構成を行った結果，幼児に以下のような変容が見られた。

・　友達を受け入れる心のゆとりを生み，無理なく人とかかわる中で，相手の気持ちを受け入れようとしたり，想像したりすることができた。

・　より多くの友達や異年齢児とかかわる中に，道徳性の芽生えが表れた姿（物を大切にする，思いやる，助け合う，約束を守る，責任を果たすなど）が見られるようになった。

○　相関表の作成・活用によって，全体の中の個に対する援助，その個を取り巻く周囲の幼児への援助を，育てたい姿を描き，見通しをもって行えるようになった。

○　相関表の活用にあたって，担任外の教師とも幼児一人一人の実態に応じた援助の方向性を共通理解し，ティーム保育に生かすことができた。

○　幼児の「してよかった。」「また○○したい（してあげたい）。」という道徳性の芽生えにつながる気持ちを育てるためには，幼児の言動や気持ちを意味付け，価値付ける教師のかかわりの工夫が大切なことが明らかになった。

2　課題と展望

○　相関表の縦軸について，幼児の具体的な姿を再考し，より客観性をもたせていく。

○　道徳性の芽生えを培うために，環境構成と援助について視点を広げていく。